

平成 15 年度 舢倉島総合診療実施報告書

平成 15 年 8 月 1 1 日

舢倉島診療所長 柳川勇人

平成 15 年度の舢倉島総合診療は、石川県、輪島市の主催により 8 月 2 日(土)、3 日(日)の 2 日間に渡り実施されました。好天にも恵まれ、関係の皆様方のおかげで無事終了いたしました。ここに厚く御礼申し上げます。

つきまして、今年度の実施状況を以下に報告いたします。

1 日程

平成 15 年 8 月 2 日(土) 午後 1 時～午後 5 時
8 月 3 日(日) 午前 9 時～午前 11 時(予定では正午まで)

2 診療科目、場所

石川県輪島市海士町舢倉島高見一 舢倉島開発総合センター 1 階
玄関ロビー : 受付
診察室 : 外科(上部消化管内視鏡)
検査室 : 眼科、レントゲン撮影
コンピュータ室 : 耳鼻咽喉科
保育室 1 : 内科
保育室 2 : 聴力検査

3 診察科目

内科、外科(上部消化管内視鏡)、耳鼻咽喉科、眼科

4 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師 (小森耳鼻咽喉科医院)
	高窪 美智子	看護師 (石川県立中央病院)
眼科	山村 敏明	医師 (やまむら眼科医院)
	稲木 里美	保健師 (輪島市長寿保健課)
外科	高畠 一郎	医師 (金沢有松病院)
	佃 恵美子	看護師 (石川県立中央病院)
内科	上田 章人	医師 (市立輪島病院)
	村田 亘	医師 (市立輪島病院)
	山本 淳子	看護師 (石川県立中央病院)

受付	野崎 智広	(県企画管理係)
	前寺 康剛	(医療企画係)
	斉藤 きぬえ	(看護係)
雑務	柳川 勇人	(舳倉島診療所)

5 受診状況

日時	内科	内視鏡	耳鼻科	眼科	受診者数	受診件数
8月2日	26人	12人	27人	30人	52人	95件
8月3日	4人	6人	1人	2人	11人	13件

今年梅雨明けが遅く、天候不順であったが、総合健診の行われた8月2日、3日は天候も良く、受診者数はほぼ平年並みであった。

ほとんどの受診者は8月2日に集中した。これは今までの関係者の方々の御尽力により、H13年度から8月の第一土曜日を総合健診に合わせて沖休み（休漁日）として頂いたおかげである。

沖休みにした効果が特に顕著に現れたのは、内視鏡の受診者で、2日（休漁日）では12人中、男性一人であったのが3日（漁がある日）では6人中6人が男性であった。

全体の受診者では男：女 = 23：40で女性の受診者が多かった。

夏の時期は海女漁が盛んであり、（詳しい統計は無いが）島内の男女比と受診者の男女比はほぼ等しいように思われた。

また、健康に不安を抱える高齢の受診者が多く、青壮年の受診者は少なかった。



写真1 受付風景

6 各科診療内容

内科

今年度は輪島病院内科に勤務する上田医師と村田医師の2名によって診察が行われた。

全例で血圧測定、血糖測定、心電図、尿定性検査を施行し、必要に応じて胸部レントゲン撮影を行った。

島民の高齢化や食生活により、高血圧、糖尿病などの生活習慣病を有する方が増えてきているため、内科の医師による診察および診療カルテの check は島民ならびに診療所を預かる身にとっても非常にありがたい事である。

今年もこれらの診察および検査によって新たな異常所見がみられ、検査や治療の指示を頂いた。



写真2 内科診察

外科（上部消化管内視鏡）

今年度も高畠医師による上部消化管内視鏡検査を施行した。

以前には、この総合健診にて早期胃癌を発見され、手術により現在も元気に漁をされている方もおられ、島民に喜ばれている健診のひとつである。

今年度は幸いにも生検を必要とする方もおらず、軽い胃炎を認める方が数名いる程度であった。

これも毎年、内視鏡検査をしていただいているおかげだと思われる。



写真3 外科診察

耳鼻咽喉科

今年度も診療団代表の小森医師に耳鼻咽喉科診療をして頂いた。

島民の中には、わざわざ金沢まで出向いてでも小森医師の診察を希望する方もおられ、島民に信頼されている先生である。

診察中も島民との不思議なコミュニケーションを交わしながら、楽しく診察されている先生が印象的であった。

本年も喉頭ファイバー、副鼻腔X線検査、オーディオメーターを用いての検査をして頂き、治療の指示を頂いた。また、小森医師の感想では、今年は天候不順が続き、まだ海女さんの潜水深度が浅いため、例年よりも耳の調子が悪い人が少ないとの事であった。また、以前は綿や粘土を耳に詰めて潜っていた海女さんが、小森先生の勧めでシリコン製粘土の耳栓を使用するようになった事も関係があると思われる。



写真4 耳鼻咽喉科診察

眼科

眼科も小森医師と共に、今年で21年目となる総合診療を支えていただいている山村医師に診察して頂いた。

高血圧、糖尿病などの生活習慣病を有する島民が多いため、年一回の検査を楽しみにしている方は多い。受診者も例年一番多く、今年も最多の32名が受診した。

島民の中でも、海女漁をしている方は水圧と薄暗い海底でのアワビ探しのため、視力低下や眼精疲労の訴えが多く、ともすれば漁獲高の減少につながるため、眼科の専門医に診察していただくことは非常に有意義である。

受診者の中で1名は中心静脈分枝閉塞症との診断を頂き、翌日、輪島市内の医療機関にてレーザー凝固術を受けた。



写真5 眼科診察

7 反省および今後への提言

今年も1日目終了後、スタッフによる反省会をした。

以下に私見も加え、今後の総合診療をより良いものとするための提言を記す。

・総合診療用のカルテを日常の診療にもっと活用すべき。今までは翌年までダンボールにしまって保存していたが、各科のカルテをクリアファイルに閉じ、専用の棚を用意した。

問診表や検査結果の散逸も防ぐ役割もあり。

・受診者がいつも同じメンバー。輪島市で健診を受けているためかもしれないが、もっと若い人にも受診していただくように啓蒙する必要あり。

・内科は受診者すべての診療所カルテを出し、今までの総合診療用カルテと共に内科医に診て頂いた。耳鼻科、眼科、外科と違い、普段の血圧や投薬内容がわかるため無

駄な問診が減り、効率よく診察できていたように思う。カルテ出しは診療所長の仕事になるが、効率よく動けばまったく問題ない程度である。

・内科での検査項目の検討。 全例実施しているのは、血圧、血糖、心電図、尿定性などの比較的成本がかからないものだが、全例に胸部レントゲン撮影、採血などにはできないだろうか？

これには、コスト（誰がお金を出すか？）や人材の確保（放射線技師等）、輪島市などで実施している健診との兼ね合い等の様々な障害はあるが、今後も継続して議論されることを望む。

・なぜか島に医療機器を持ってくるとよく壊れる。修理は誰の責任で行うか？ 各医師のご厚意で勤務先の病院から借りてきている器械もある。主催者である県、輪島市にはぜひご検討願いたい。

・胃カメラは完全予約制。 今年はおらかじめ一軒一軒周って希望者を募り、前日に絶食の指示を電話で確認した。全例で指示を守ることが出来ていたので、来年以降もこの方式で行うことが望ましい。

8 まとめ

今年は冷夏のため天候が危ぶまれましたが、8月2日、3日は絶好の診療日和に恵まれ、夏恒例の舳倉島総合診療を無事行うことが出来ました。これもひとえに関係の皆様方のご努力と日頃の行いの賜物と大変感謝しております。

今年で21回目となる総合診療は、小森医師や歴代の診療所長でもある自治医大卒業生の方々のサポートにより、途切れることなく今日まで受け継がれてきました。島民の総合診療に寄せる期待と信頼は高く、今後もこの総合健診の継続とますますの発展を切に願います。

9 謝辞

平成15年度の舳倉島総合診療の開催にあたり、ご尽力いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後とも舳倉島民のため、ご支援の程よろしく願いいたします。

第47代 舳倉島診療所長 柳川勇人 拝



写真6 集合写真（スタッフ一同＋ラルフ君）